

## 窓の性能表示制度に関するとりまとめ(概要)

○断熱性能を含む高性能な窓の普及を図るべく、窓の性能表示制度の見直しについて審議し、結果を取りまとめた。

### 1. とりまとめの背景

「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて策定された第六次エネルギー基本計画(令和3年10月閣議決定)においては、2030年以降新築される住宅・建築物について、ZEH・ZEB基準の水準の省エネルギー性能の確保を目指すこととされている。

住宅の省エネルギー性能の確保には、住宅の高断熱化が重要であり、特に熱の出入りの大半は窓等の開口部を経由していることから、この部分の対策を進めることが必要であり、先般の窓の建材トップランナー制度の性能基準の強化と合わせて、従来より運用されてきている窓の性能表示制度を見直す。

### 2. 表示方法の見直し

現在の窓の流通形態は、中間の代理店や販売店がサッシとガラスを組み合わせて窓として工務店に出荷していることが多く、これらの代理店や販売店の多くは、窓の性能計算や性能表示ラベルの貼付の作業に負担を感じているため、製品への貼付はほとんど普及していないという実態がある。このため、現行制度と同様に、サッシやガラスのメーカーにおいて対応が可能なカタログへの掲載、ショールーム等での表示を行うこととする。

一方、製品への貼付については、より多くの消費者の目に触れるようになり、高性能な窓に対する消費者の認知度が高まり、新築のみならず中古住宅においてもより高性能な窓が普及していくことが期待できる。このため、代理店や販売店に対して、窓の性能計算の支援ツールの導入や、容易かつ正確に貼付できるラベルを供給する等により、可能な限り製品への貼付を目指すこととする。

### 3. JISの改正を踏まえた表示内容の見直し等

窓の性能表示において参照しているJIS A 4706は、2021年2月に改正されており、断熱性の上位等級と日射熱取得性の評価指標が追加されている(下図の赤枠部分参照)。

(改正前)

性能項目	等級	熱貫流率
断熱性	H-1	4.65 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-2	4.07 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-3	3.49 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-4	2.91 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-5	2.33 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-6	1.90 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]

(改正後)

性能項目	等級	熱貫流率
断熱性	H-1	4.7 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-2	4.1 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-3	3.5 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-4	2.9 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-5	2.3 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-6	1.9 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-7	1.5 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
	H-8	1.1 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]
性能項目	等級	日射熱取得率
日射熱取得性	N-1	1.00
	N-2	0.50
	N-3	0.35

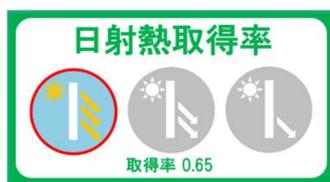
### (1) 断熱性能の表示の見直し

現行制度では断熱性を4段階の星マークで表示しているが、JISの改正を踏まえ、以下のように6段階の星マークで表示することとする。

性能項目	等級	熱貫流率	<参考> 現行制度 (4つ星評価)	新たな評価区分 (6つ星評価)
断熱性	—	4.7 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]を超えるもの	★☆☆☆	☆☆☆☆☆☆
	H-1	4.7 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	★☆☆☆	★☆☆☆☆☆
	H-2	4.1 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]		
	H-3	3.5 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	★★★★☆	★★★★☆☆
	H-4	2.9 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]		
	H-5	2.3 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	★★★★★	★★★★☆☆☆
	H-6	1.9 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]		★★★★☆☆☆
	H-7	1.5 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]		★★★★☆☆☆
H-8	1.1 [W/(m <sup>2</sup> ·K)]	★★★★☆☆☆		

## (2) 日射熱取得性の表示の新設

JIS A 4706 において、日射熱取得性の評価指標が新設されていることを踏まえ、以下のように3段階のマークで表示することとする。



なお、日射熱取得性については、現時点で消費者が内容を十分に理解しているとは言えないため、以下の項目で構成される「窓の性能表示ラベルに係るガイダンス」を業界と協力して作成し、消費者の理解を醸成していくこととする（ガイダンスの作成方針はとりまとの別の別添として掲載。）。

### <「窓の性能表示ラベルに係るガイダンス」の骨子>

- ① ガイダンスの策定に係る背景・目的
- ② ガイダンスのターゲット等
- ③ 窓の断熱性能について（窓の「断熱性能」の重要性とメリット、見方のポイント等）
- ④ 窓の日射熱取得率について（窓の「日射熱取得率」の重要性とメリット・デメリット、見方のポイント等）
- ⑤ 作成者のクレジット
- ⑥ ガイダンスの運用に当たって

## (3) 表示ラベルのデザイン

デザインは以下の2通りとし、いずれを用いても良いこととする。

また、製品に貼付する場合には、熱貫流率及び日射熱取得率の数値は表示しないものであっても良いこととする。



窓の性能表示のデザイン（縦表示）



窓の性能表示のデザイン(横表示)

#### 4. 性能の等級の決定方法の見直し(代表サイズの採用)

現行制度においては、熱貫流率で性能等級(星の数)が決まることとなっているが、当該熱貫流率は窓のサイズが変わると数値が変わるため、同一シリーズ内でも性能等級が変わり、分かりづらい等の課題があった。

このため、同一シリーズであれば代表サイズで評価し、共通の性能等級を使用することとする。

#### 5. 将来に向けた提言等

窓の性能表示制度において参照している JIS A 4706 以外にも、窓のエネルギー性能を計算する手法として、JIS A 2104(WEP 法)が制定されているが、審議の結果、WEP 法を窓の性能表示に活用していくことは、現段階では検討すべき課題が多いことから時期尚早であるとされた。

一方、WEP 法の活用を追求していくことは有意義であると考えられるため、消費者に混乱を与えないよう業界において統一的な運用ルール等を整備することを前提として、事業者が自主的に窓の性能表示に活用することは妨げないこととする。

#### 6. 政策目標の実現に向けて

2030 年度以降に新築される住宅の省エネルギー性能の目標を達成には、新たな窓の性能表示制度を通じて、消費者が窓の断熱性能等を正しく理解し、適切な窓の選択を行える環境を整備していくことが重要である。そのため、政府は新たな窓の性能表示の普及啓発等に努めるとともに、製造事業者等は窓の性能表示の活用とガイドンスを用いたユーザーの理解の醸成等に努め、更にユーザーは適切な性能の窓の選択を通じて住宅の省エネルギー性能の確保等に努めることとしている。

○参考:総合資源エネルギー調査会 省エネルギー・新エネルギー分科会 省エネルギー  
小委員会 建築材料等判断基準ワーキンググループ 委員名簿

【座長】

田辺 新一 早稲田大学理工学術院創造理工学部 教授

【委員】

池本 洋一 (株)リクルート SUUMO 編集長

井上 隆 東京理科大学 名誉教授、東京電機大学 客員教授

岩前 篤 学校法人近畿大学 副学長・建築学部長

加藤 徳子 (公社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント  
相談員協会東北支部・青森分科会代表

鈴木 大隆 (地独)北海道立総合研究機構 理事

中村 美紀子 (株)住環境計画研究所 主席研究員

二宮 秀與 鹿児島大学理工学域工学系 教授

前 真之 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 准教授

望月 悦子 千葉工業大学創造工学部建築学科 教授

山下 ゆかり (一財)日本エネルギー経済研究所 常務理事